

平成 28 年度
濃縮汚泥引抜ポンプ取替修繕工事

特 記 仕 様 書

志摩市上下水道部水道工務課

第1章 一般事項

第1節 安全性と信頼性の確保

本工事は発注者が志摩市に水道用水（飲料水）を供給するための施設の整備を行うものであり、受注者は、機器の設計、材料の選定、施工方法及び現地施工管理等工事全般にわたって細心の注意を払い、水道用水の安全性と信頼性の確保に努める。

第2節 適用規格

「三重県公共工事共通仕様書」に規定の関係規格の他、日本水道協会「水道工事標準仕様書(設備工事編)」、日本下水道事業団「電気設備工事一般仕様書」、その他電気機械に関する技術基準を定める省令及び告示等、最新の規格標準に準拠する。

第3節 システム設計

システム設計とは、設計図書に基づく確認・検討・調整等及び関連する他工事との取り合い確認を経て、施設に合った最適な機器・材料を選択し、システムとしての組合せを行い、最終的に据付けるまでに係る技術的な検討をいい、受注者は、土木・建築等の構造物、機械設備並びに既設電気設備等の事前調査を十分に行ったうえで、設計図書により当該工事の設計意図を充分把握し、最適なシステム設計を行い、監督職員に提案・承諾を得る。なお、機器及び材料の選定に当たっては、下の内容に留意すること。

- ・将来の廃棄時における再資源化等、環境への影響を考慮する。
- ・日本国内で調達可能なものを選定する（海外製品を含む）。
- ・原則として、納入後の機器の修理、部品取替などに支障のない機器を採用する。

第4節 施工管理

受注者は、施工計画書を遵守した工事施工にあたる。また、施工の詳細については、必要に応じて、施工要領書を提出する。

受注者は、契約図書に適合するように工事を施工するために、熟練した技術者及び作業員を派遣するとともに、自らの責任において、施工管理体制を確立する。

機器等の製作期間、別途工事との取合い、既存施設との取合い、水運用などの条件を十分考慮して無理のない現場施工期間を設定し、現場施工着手後に工事に起因する種々の不具合が生じないようにする。

受注者は、自らの責任と費用において、一般仕様書及び工事必携により施工管理を行い、その記録及び関係書類を作成、保管し、監督職員等の要請があった場合は直ちに提示するとともに、検査時に提出する。ただし、一般仕様書及び工事必携に定めのない場合又は施工条件等により、これらによりがたい場合には、監督職員と協議のうえ、施工管理を行う。

受注者は、発注者の設備を操作するにあたっては、発注者の許可を得てから操作する。

第5節 設備停止の制約

受注者は、既設設備の状態と運用状況を事前に調査し、十分に把握したうえで工法等の検討を行い、発注者の承諾を得たうえで施工する。

第6節 安全管理

受注者は、高所作業又は高、低圧充電部に近接して工事を行う場合は、あらかじめ保安上の必要な処置、緊急時の応急処置等について、常に監督職員と協議を密にし、必ず安全具、保護具等を着用して作業する。

受注者は、作業に先立ち、次項について監督職員と協議し、必要により標示等の処置を行う。

- 1、開閉器類の操作禁止標示
- 2、作業区域標示と立入り禁止処置等
- 3、機器の取扱注意標識
- 4、その他必要な処置

第7節 瑕疵

建設工事請負契約書の条項第44条に記載の「瑕疵」には、仕様を示す機器類単体の機能、性能及び設備のシステム設計に起因する支障を含み、機能性能、耐用及び既設設備との協調を含めた一切の責務は受注者が負う。

第8節 部分使用

発注者は、工事の一部が完成した場合に、その部分の検査をして合格と認めたときは、その合格部分の全部又は一部を受注者の書面による同意を得て使用することができる。ただし、使用部分についての維持管理は発注者が行う。

受注者は、発注者が契約約款第33条の規定に基づく部分使用を行う場合には、特命検査又は監督職員による品質及び出来形等の検査（確認を含む。）を受ける。

第9節 目的物の引渡し

発注者の行う完成検査に合格し、その完成を認定した日をもって完了とする。（工事目的物引渡書の提出後）

第10節 関係官公庁等への許可申請

関係諸官公庁、電力会社等に対する諸手続きは、すべて受注者が本工事内で行う。

第11節 現場発生品

既設機器等の撤去、部品取替等に伴い発生する建設副産物（機器を請負者の工場等に搬出し改良、補修等を行う場合で、部品取替等により発生する有価物及び廃棄物を

含む。以下「発生品」という。)は、品名、形状及び数量を確認し、「発生材報告書」を作成して監督職員に提出する。

発生品は、水道工事標準仕様書(設備工事編 2010)「1.5.2 建設副産物の処理」に従い適正に処理する。

第12節 疑義

本工事において疑義が生じた場合は、協議のうえ決定する。

第13節 その他

- 1、主要機器には、製造銘板を取付する。
- 2、予備品を納入する。

第2章 工事概要

第1節 工事履行場所

磯部浄水場 : 志摩市磯部町恵利原 223

第2節 工期

契約の日から平成29年3月24日まで

第3節 工事概要

磯部浄水場に設置されている汚泥引抜ポンプ1台を取替し、一部配管等の取替を実施する。

第3章 既設機器仕様

第1節 ポンプ

1、汚泥引抜ポンプ

(1) 製造メーカー	古河機械金属株式会社
(2) 型式	S P N - 1 0 0 C (無閉塞ポンプ)
(3) 吐出量	0 . 9 m ³ / min
(4) 口径(吸込側 / 吐出側)	1 0 0 m / 1 0 0 mm
(5) 全揚程	2 0 . 0 m
(6) 水質	上水濃縮汚泥

2、原動機

(1) 製造会社	株式会社 東芝
(2) 型式	I K K
(3) 形式	全閉外扇屋外形
(4) 出力	1 1 K W

- | | |
|---------------|-----------------|
| (5) 周波数 | 6 0 H z |
| (6) 電圧 | 2 0 0 V (3 相) |
| (7) 駆動方式 | 電動機直結駆動方式 |
| (8) 電動機起動方式 | 直入 |

3、付属品

- (1) 共通ベース
- (2) 基礎ボルト、ナット (S U S 製)
- (3) カップリングカバー
- (4) 圧力計 (隔膜式、S U S 製)
- (5) 連成計 (隔膜式、S U S 製)
- (6) 防振装置 (クラシキ K B 1 0 0)

第 2 節 ポンプ付属配管

1、スリーブジョイント

- (1) 製造会社：日本ヴィクトリック株式会社
- (2) 型式：スリーブジョイント V D - 1 0 0
- (3) 口径：1 0 0 m m
- (4) ボルト・ナット・ストッププラグ：S U S 製
- (5) 塗装：エポキシ粉体塗装 (スリーブ内外面及びフランジ面)
- (6) 圧力：2 . 0 M P a

2、球体フレキ

- (1) 製造会社：愛知タイヤ工業株式会社
- (2) 型式：ボール フレックス
- (3) 口径：1 0 0 A
- (4) フランジ：S U S 製 J I S 1 0 K

第 4 章 新規機器仕様

第 1 節 ポンプ

- 1、前記の第 3 章 第 1 節と同等以上の性能を有すること
- 2、運転時の振動・キャビテーションに十分耐えうるものであること
- 3、容易にポンプ内部の異物を排出できるものであること
- 4、屋外設置に十分耐えうるものであること
- 5、付属品へその他必要なものを含むものとする。
- 6、電源ケーブルについては既設を流用可とする。
- 7、台数 1 台

第2節 ポンプ付属配管

- 1、前記の第3章 第2節と同等以上の性能を有すること
- 2、取替数 1式

第5章 工事仕様

第1節 運搬

機材の運搬は、慎重に行い、必要に応じて防湿、防錆等の対策を講じ、内容物に損傷を与えないように取扱う。また、運搬中の路面あるいは第三者に損傷を与えた場合、建屋への搬入時に構造物等に損傷を与えた場合は、すべて受注者の責任において対処する。

第2節 養生・補修塗装等

受注者は、工事实施にあたり、既設設備に影響を与えないよう十分に養生する。

工事完了後は、速やかに養生を撤去し、後片付け、清掃を行う。

据付時等に損傷した箇所は、補修塗装する。

機器の据付に伴いピット内または台座等を加工した時、また、機器を撤去した跡は、できる限り周囲の状況になじむように補修する。

第3節 機器等の据付

ポンプ据付は既設架台に共通ベース、ポンプ及び電動機を堅固に取り付けるものとし、ポンプ設置による既設架台への共振をおこさないように施工する。また、機器等は施行後も保守点検及び分解点検が容易に実施できるように施工する。

吸込管及び吐出管は原則として既設を流用するものとするが、新設ポンプの形状、寸法等から既設管の取替が必要となった場合は、受注者の負担にて取り換えるものとする。ただし、ドレン管 に関しては再利用設置とし、ドレン管 及び注水管(バルブ含む)に関しては取替を行うものとする。(ドレン管 、 及び注水管については図面参照)

アンカーボルトや固定金物は機器に対して十分強度の保てる材料・形状・数量を用いる。

ポンプ取替に伴う配管の取外し及び据付には既設ボルト、ナットは流用できるものとする。

第4節 塗装

機器等の塗装については「水道工事標準仕様書(設備工事編)」に準拠する。

第5節 衛生面の注意

受注者は、稼動中である浄水場等水道施設において作業に従事する場合は特に衛

生面に注意し、次の事項を遵守する。

- (1) 作業に従事する者は、病原体がし尿に排せつされる伝染病の患者または病原体の保有者でない者とし、健康診断等により、このことを証明する証明書を作業前に監督職員に提出する。
- (2) 作業中に劇毒物、油類、汚水等により水道水等を汚染しないようにしなければならない。

第 6 節 その他

本工事施工上必要な軽微な部品及び消耗品等は、受注者が準備する。

受注者は、本工事範囲外であっても、既設設備の異常を発見した場合は、速やかに監督職員に報告する。

第 6 章 試験

受注者は、試験の実施に先立って試験要領書を監督職員に提出する。試験後は、速やかに試験記録を監督職員に提出する。

試験に必要な計器類は、受注者が準備する。

試験項目は、打合せのうえ決定する。

第 7 章 その他事項

1、受注者は、今回工事にかかる工事目的物、機器等については火災保険等に付さなければならない。

2、完成図書

完成図書は、A4 サイズ黒表紙打ち出し金字書きとし、パイプファイルにて製本する。部数は 2 部とする。

3、休日又は夜間作業

受注者は、原則、官公庁の休日または夜間に作業を実施しないものとし、作業時間は 8 : 30 ~ 17 : 00 とする。

添付書類等

位置図	1 枚
既設機器設置状況参考図 1	1 枚
既設機器設置状況参考図 2	1 枚
既設機器設置状況参考図 3	1 枚
	計 4 枚